

横浜市と「横浜市版脱炭素化モデル事業」に関する協定を締結

次世代郊外まちづくりの拠点である「WISE Living Lab」にシェアサイクルステーションを設置し、地域の回遊性向上と脱炭素化を推進します

東急株式会社
東急バス株式会社
we love tamaplaza project

東急株式会社(以下、東急)、東急バス株式会社(以下、東急バス)およびwe love tamaplaza projectが提案した「田園都市線たまプラーザ駅北側エリア・脱炭素推進モデル事業」(以下、本事業)が、横浜市が行う「横浜市版脱炭素化モデル事業」に選定され、2023年12月13日に横浜市と事業実施に向けた協定を締結しました。

横浜市は、2030年のSDGs達成、2050年の脱炭素化社会の実現に向けて、「横浜版脱炭素化モデル事業」として「脱炭素化」と「地域課題の解決・賑わいづくり」を一体的に推進するモデル事業の提案を2022年度より募集しています。

2023年度の「横浜市版脱炭素化モデル事業」として選定された本事業は、田園都市線たまプラーザ駅北側に位置する、次世代郊外まちづくり^{※1}の活動拠点「WISE Living Lab」の敷地の一部に太陽光発電設備、蓄電池、モビリティ充電器などを設置し、発電した電力を活用して電動小型シェアモビリティを充電すること、シェアサイクルステーションの設置によって、地域の回遊性向上および災害時の電力供給など防災力の向上にも寄与する脱炭素化の取り組みを、5年間にわたり推進していくものです。

東急バスがOpenStreet株式会社(以下、OpenStreet)と提携して展開する「HELLO CYCLING」のシェアサイクルステーション^{※2}を、2024年1月22日(月)に「WISE Living Lab 駐車場」に設置するほか、2024年2月15日(木)には「WISE Living Lab」の入り口付近にも設置します。このシェアサイクルステーションの設置により、地域の回遊性が向上し、さらに、CO2排出量が少ない交通手段としてシェアサイクルをご利用いただくことで、脱炭素化を推進していきます。

今後は、2025年度までに太陽光発電設備の設置を目指し、そのほか、電動小型シェアモビリティ、蓄電池、モビリティ充電器などの設置も進めていきます。太陽光発電設備で発電した電力を活用して、電動小型シェアモビリティの充電が可能となることで、さらに脱炭素化の取り組みを推進します。また太陽光発電設備の設置に先立ち、たまプラーザ駅周辺エリアにて電動小型シェアモビリティを活用したイベントや、エネルギーの脱炭素化に向けたセミナー、we love tamaplaza projectが参加する地域活動を通じた普及啓発などの取り組みも実施予定です。

本事業を通じて、地域の回遊性向上および災害時の電力供給など防災力の向上と、脱炭素化を目指します。

本事業に関する詳細は、別紙の通りです。



▲ WISE Living Lab 外観



▲シェアサイクルステーション(イメージ)

東急バス荏原営業所ステーション



▲EV充電スタンド

※1 「次世代郊外まちづくり」は、横浜市北部地域の田園都市線沿線の郊外住宅地において、既存のまちが抱えるさまざまな課題を産学公民連携によって解決していく、住民参加型・課題解決型のプロジェクトで、2012年から横浜市と東急が取り組んでいます。

※2 OpenStreet株式会社が展開するシェアサイクル「HELLO CYCLING」のシェアサイクルステーション。

【別紙】

■「横浜版脱炭素化モデル事業」概要

横浜市では、脱炭素化を新たな成長戦略に位置付け、市内経済の循環及び持続可能な発展を全庁一丸となって推進し、2030年のSDGs達成、2050年の脱炭素化社会の実現に向けた取組を加速しています。そこで、「脱炭素化」と「地域課題の解決・賑わいづくり」を一体的に推進するモデル事業の提案を令和4年度より募集しました。

■「田園都市線たまプラーザ駅北側エリア・脱炭素推進モデル事業」概要

1. 目的

東急田園都市線たまプラーザ駅北側に位置する、次世代郊外まちづくりの活動拠点「WISE Living Lab」に太陽光発電設備、蓄電池、モビリティ充電器などを設置し、発電した電力を活用して電動小型シェアモビリティを充電する創エネルギーの取り組みによるCO2排出量削減と、発電した電力を災害時の電力供給にも活用することで、地域の防災力向上を目指します。

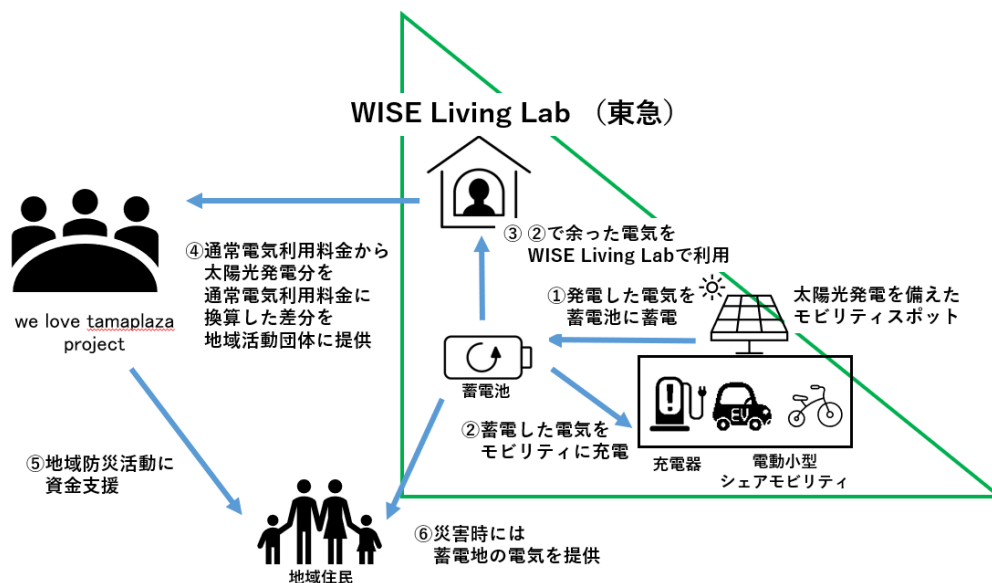
また、シェアサイクルステーションの設置により、CO2排出量が少ない交通手段を提供することで、移動手段に関する意識変容、行動変容を促進します。横浜市が進める「横浜市広域シェアサイクル事業社会実験」とも連携し、事業目的である公共交通の機能補完として日常生活の移動手段の確保と移動の選択肢を増やすことによる生活の質の向上を図り、脱炭素化社会の形成に寄与します。

2. 事業内容

東急が運営する「WISE Living Lab」に、太陽光発電機能を備えたモビリティスポットを設置し、同スポットで発電した電気を東急バスが運営する電動小型シェアモビリティの電力に充当し、余剰電力は「WISE Living Lab」の電力としても利用します。

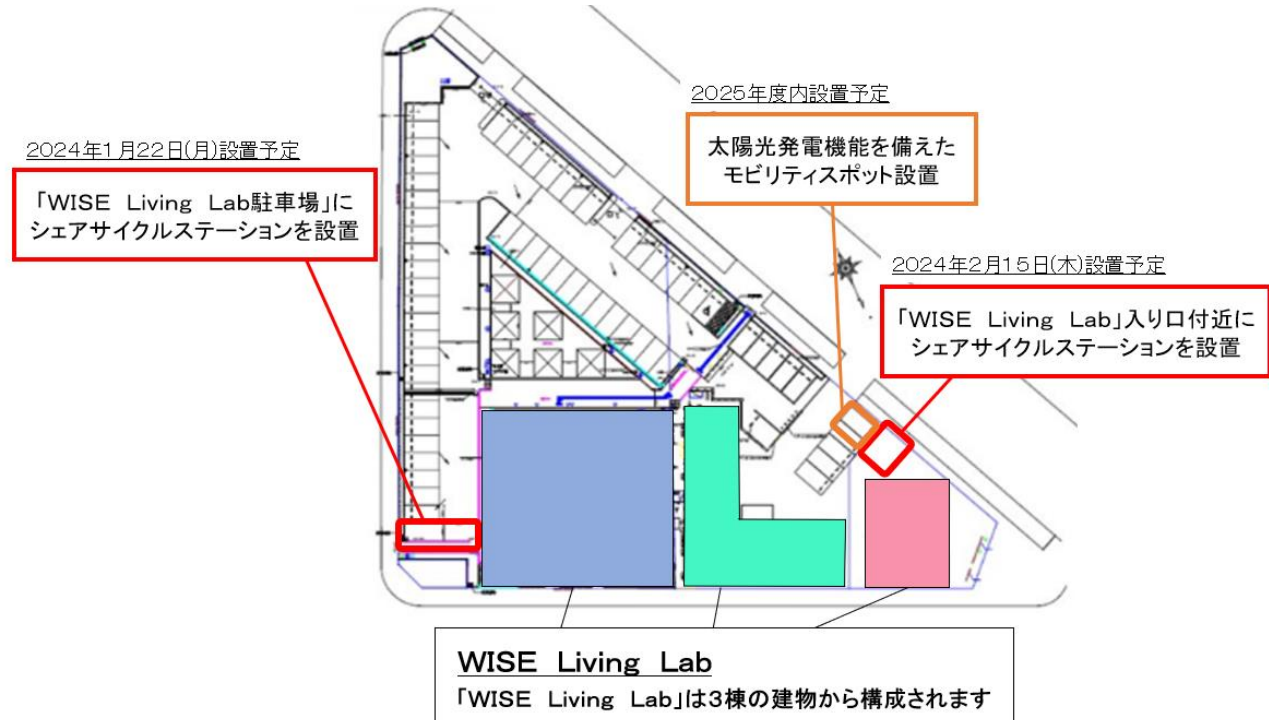
また、隣接する美しが丘公園で行われる美しが丘連合自治会による防災訓練に、we love tamaplaza projectも参加し、地域全体での防災意識の向上に取り組んでいます。東急は太陽光発電によって削減された電気使用量相当額を今後はwe love tamaplaza projectに還元し、防災訓練などで活用する予定です。

3. 事業スキーム図



※本事業では、「WISE Living Lab」に設置した太陽光発電設備による電力を電動小型シェアモビリティの電力に充当しますが、シェアサイクルの電力に充当するかは未定です。

4. 太陽光発電設備設置場所、およびシェアサイクルステーション設置場所(いずれも予定)



■東急バスのシェアサイクル事業 概要

東急バスは OpenStreetと業務提携し、2023年6月14日から、東京都および神奈川県の本急バス営業所を中心に「HELLO CYCLING」のシェアサイクルステーションを設置し、電動アシスト自転車を導入しました。シェアモビリティサービスと公共交通機関が担う役割が一段と高まるなか、東急バスがOpenStreetのシェアサイクルプラットフォームを活用し、バス路線と接続しやすい場所へシェアサイクルステーションを設置することで、ご利用様が効率的に移動できる環境を提供します。

OpenStreet: <https://www.openstreet.co.jp/>

HELLO CYCLING: <https://www.hellocycling.jp/>

■「次世代郊外まちづくり」とは

「次世代郊外まちづくり」は、横浜市北部地域の東急田園都市線沿線の郊外住宅地において、既存のまちが抱えるさまざまな課題を産学公民連携によって解決していく、住民参加型・課題解決型のプロジェクトで、2012年から横浜市と東急が取り組んでいます。

公式HP: <http://jisedaikogai.jp/>

■「WISE Living Lab」とは

次世代郊外まちづくりの活動拠点・情報発信の場として、2017年5月に整備された東急が運営する施設です。産学公民の新しい連携のあり方によるイノベーションの創出や、地域住民の自発的なコミュニケーションの形成を促す取り組みを行う「共創スペース」に加え、コミュニケーション、ワークショップなどのスペースやカフェも併設しています。

2022年度には、「WISE Living Lab駐車場」にEV充電スタンドを設置し、電気自動車の充電に活用いただいています。

公式HP: <http://sankaku-base.style/>

■we love tamaplaza projectについて

「we love tamaplaza」を合言葉に、もっと住み良い、もっと素敵な街を目指して、たまプラーザ地区およびその周辺の施設、団体などが協力して、街の繁栄と発展のため必要な事業を行うと同時に、会員相互間、街の住民、就業者、その他関係者のコミュニケーション活動、コミュニティの形成を支援し、永続的、発展的なしあわせ溢れるまちづくりを目的とし組織化しました。

具体的な活動内容は、街の活性化に寄与するフェスティバル・イベント(サマーフェスティバル、桜フェスティバルなど)の企画、運営、街の発展に寄与する勉強会、視察会、地域で行われているイベント(例 美しが丘連合自治会主催防災訓練)などに積極的に参加しています。

公式HP:<https://welovetamaplaza.jp/>